

米韓発「半導体株調整」の連鎖が日経平均に波及した

SOXとKOSPIの需給悪化を受け、東証の値がさ半導体株に売りが先行

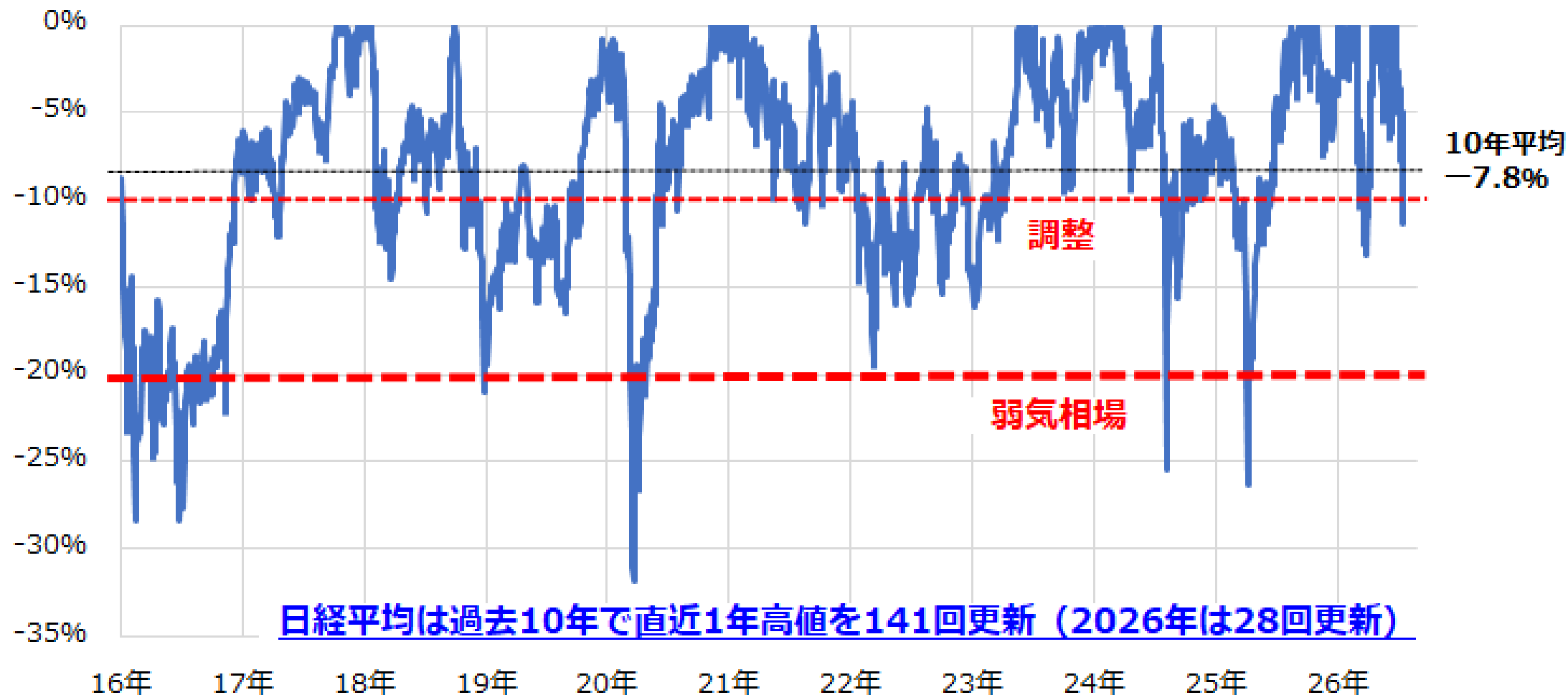
- 6月22日を高値にSOX指数に利益確定売りが先行。銘柄別ウエイトでサムスン電子とSKハイニックスの2社で54%を占めるKOSPI指数が下落基調に転じた。
- 7月16日に韓国中銀が予想に反して政策金利を約3年半ぶりに引き上げた(2.50%→2.75)。同日に、当局はサムスン電子とSKハイニックスを対象とする個別株レバレッジETFの新規上場停止や証拠金規制強化を発表した。
- キオクシアHDが米国から約370億円の特許侵害審判をうけた(16日)。SKハイニックスがNAND型の設備投資強化を公表していた(2日)。
- 中国企業(CXMT、YMTC、ムーンショットAI)台頭による競争不安。
- 米ハイパースケーラーの4-6月期決算と設備投資計画を巡る不透明感。



日経平均の下落は「調整」か「弱気相場」か

過去10年のドロードウンで検証——値がさ株の変動が相場の振幅に影響

日経平均のドロードウン（直近1年高値からの下落率）



米国市場の業種別株価にみるセクターローテーション

AI・半導体・資本財に利益確定売り、4-6月期好決算でヘルスケア・金融株へ資金シフト

S&P500・11大業種別株価指数 騰落率ランキング（2026年7月20日）

年初来騰落率（降順）

エネルギー	+29.04%
資本財	+14.37%
IT（情報技術）	+13.88%
不動産	+13.04%
S&P500指数	+8.73%
安定消費財	+8.55%
素材	+8.29%
公益事業	+4.84%
ヘルスケア	+2.79%
金融	+2.29%
通信サービス	+1.96%
一般消費財	-2.94%

1カ月前比騰落率（降順）

エネルギー	+8.23%
ヘルスケア	+6.03%
金融	+2.95%
不動産	+2.84%
公益事業	+1.24%
安定消費財	+0.69%
S&P500指数	-0.03%
通信サービス	-0.41%
一般消費財	-0.52%
資本財	-2.13%
素材	-4.10%
IT（情報技術）	-4.25%

（出所）各種の市場データより作成（7月17日）

革ジャンCEOの来日（7月15-16日）で始動— 国産AI構築とフィジカルAIで「ジャパンAIの幕開け」

「AIの頭脳 × 世界トップ級のものづくり」がいよいよ実装段階へ
→工場・ロボット・社会インフラが「自ら認識し、考え、動く」



産業用ロボット → 自律移動 → ヒューマノイドへ

国産AI構築（ノエトラ：Noetra）

ソフトバンク・NEC・ホンダ・ソニーグループ・日立など44社による企業連合

基盤的制御プラットフォーム

エヌビディア×富士通×ファナック×安川電機×川崎重工＝ロボットを横断制御

自律ロボット → ヒューマノイド

ファナック／安川電機 | 学習・シミュレーションで多種多量生産と人協働を高度化

産業横断フィジカルAI

三菱重工・川崎重工・トヨタ自動車 | DC・航空宇宙・エネルギー・モビリティー

半導体サプライチェーン会合

16社30人超の経営幹部が集結（東京エレクトロン・キオクシア・レゾナックなど）

エヌビディアのエコシステムと連携して、開発期間短縮 × 省人化 × 高付加価値化 → 日本企業の収益成長と経済成長の駆動力に

フィジカルAIは日本製造業の新たな成長機会

世界のロボット市場は10年で27倍へー「ものづくり力」の競争優位で勝ち筋を目指す

フィジカルAIからヒューマノイドへの世界市場規模予測

(億円)

40,000

35,000

30,000

25,000

20,000

15,000

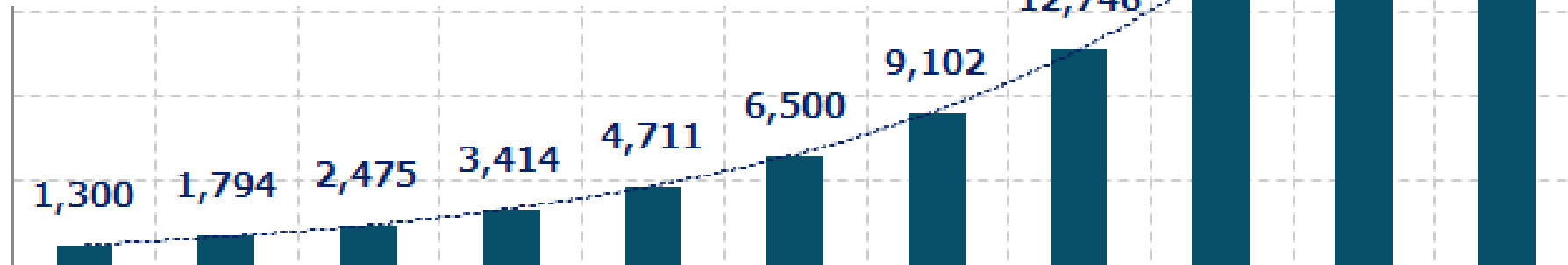
10,000

5,000

0



LLM (大規模多言語モデル) → RWM (現実世界モデル) =
AIが現場の情報データを自律的に判断し身体を制御してミスなく動かす
→ 工場・物流・自動運転・警備・建設・オフィス・家庭・教育・介護



2035年までに
25年比で27倍

2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033 2034 2035 (年)